

令和4年度 江戸川区立篠崎第四小学校 学校関係者評価 最終評価用報告書

学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・よく考え、つくり出す子～学び大好き～ ・みんなとともにのびる子～みんな大好き～ ・たくましく生きる子～自分大好き～ 	目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像	「豊かな学びと人と人とのふれあいのある学校」 「教職員や友達と学び合い、高め合うことが楽しいと思える児童」 「様々な学習や体験活動を通して人とふれあう中で、子供たちの成長を促す教師」
前年度までの学校経営上の成果と課題	(成果)・GIGAスクール構想に向けて、研修会を実施し、タブレットの導入を生かし、オンラインの活用ができた。 ・校内研究を全学級・専科が行い、学習指導力の向上を図ることができた。 (課題)・iPadを使った授業の工夫や家庭学習のあり方考える必要がある。 ・コロナ禍の状況でもできる学校行事等の見直しが必要である。		

教育委員会重点課題	取組項目	評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価		学校関係者評価		来年度に向けた改善策
					取組	成果	評価	コメント	
いきいきと学ぶ学校づくり	確かな学力の向上	・7つの主な事業(取組)に対しての学校の組織的な対応による取組の実施・充実	・児童の実態に合った授業を行う。 ・外部指導員の補習のあり方の見直しを図る。	・校内研究として全教員が授業公開を行う。 ・外部指導員を活用し、1学年に対し年35時間の補習教室を行う。	A	A	B	・子供たちが意欲をもてるような授業や活動を今後も行ってほしい。 ・外部指導を生かしたCD層の底上げを行う。	・わかりやすい授業を行うためにユニバーサルデザインを取り入れる。 ・外部指導を生かしたCD層の底上げを行う。
	体力の向上	・運動意欲の向上に向けた取組の実施・充実	・掲示物など環境を整えることで、授業や休み時間に運動することを楽しみ、できたという経験をもたせる。	・主運動につながる補助運動を入れた授業や掲示物の工夫をし、授業観察を年に1回行う。 ・体育の授業の初めに持久走などを取り入れ、持久力を伸ばす。	B	B	B	・ポッチャなど体育が得意でない子供たちも体を動かす楽しさを感じてほしい。 ・体育が好きでない児童にもスモールステップで行えるよう、授業内容や場の工夫を考え、整えていく。 ・日常的に体を動かせる体制を整える。	・体育が好きでない児童にもスモールステップで行えるよう、授業内容や場の工夫を考え、整えていく。 ・日常的に体を動かせる体制を整える。
	読書科の更なる充実	・読書を通じた探究的な学習の実施・充実	・学年に応じた読書科における探究的な授業展開を行う。	・学校のことに関するアンケート(自作作成)において読書が好きと答える児童を90%とする。 ・探究的な授業展開を年3回計画する。	B	B	B	・図書センターを整備し、読書しやすい環境を整えてほしい。 ・「調べ学習コンクール」を活用する。	・学校としての系統性のある探究的な学習の取り組みを行う。 ・「調べ学習コンクール」を活用する。
特別支援教育の推進	共生社会の実現に向けた教育の推進	・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の充実 ・エンカレッジルームの活用促進 ・副読文、交流及び共同学習の充実 ・副読文と情報の共有を図る。	・「良いところ見付け」を全クラスで行い、自他ともに認めあったり、尊重し合ったりする態度を育てる。 ・巡回指導教員との連携を図り、児童理解に努める。	・「良いところ見付け」は授業及び朝の会等で毎日行う。 ・年度末に「頑張った賞」を出す。 ・巡回指導教員のOJTを年に一度行う。 ・週に1度、児童の記録を共有する。 ・月に1度、学年だよりや学年だよりで情報共有を図る。	A	B	B	・どの児童も大切に育ててほしい。 ・配慮が必要な児童への適切な環境の確保。 ・対応する人員の調整。	・配慮が必要な児童への適切な環境の確保。 ・対応する人員の調整。
	子供たちの健全育成	・子供たちの健全育成に向けた取組	・全学年、アンケート・全員面接を実施する。 ・必要に応じて、ケース会議を設ける。	・担任やSCによる児童アンケート・面接を7月に100%実施する。 ・毎月いじめ防止対策委員会を行う。	A	B	B	・悩みを抱えている児童に寄り添ってほしい。 ・毎月いじめ防止対策委員会を行い、共通理解を図る。	・毎月いじめ防止対策委員会を今後も続けるとともに、未然防止のため、職員打ち合わせを生かして、心配なことだけではなく、クラスの様子も共有する。
学校と家庭、地域、関係機関との連携強化	学校関係者評価の充実	教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施・改善	・家庭・地域にHP、学校だより等を活用して教育活動に向けて発信する。 ・学校評議委員会が学校経営方針や教育活動について理解を深める。 ・学校アンケートを活用し、課題を把握し改善を図る。	・HPは月に3回、学年だよりは月に1回、家庭や地域に向けて発信する。 ・年に3回学校評議委員会を行う。 ・年に1回、児童や保護者、地域にアンケートをお願いする。	B	B	B	・ホームページで教育活動を知ることができ、今後も続けてほしい。 ・教育活動についてホームページ等で発信し、共通理解を図る。	・ホームページ等で発信し、共通理解を図る。
	SSW、児童相談所等との連携	配慮が必要な児童への支援	・情報の共有 ・有効な手立ての検討	・月に1回児童相談所との情報共有を行う。 ・週に1回SSWとの情報共有を行い、連携を図る。	B	B	B	・児童の変化に気付いたり、悩みを相談できたりする学校であったらほしい。 ・外部諸機関の情報を得て、互いに共有できる体制を図る。	・児童の変化に気付いたり、悩みを相談できたりする学校であったらほしい。 ・外部諸機関の情報を得て、互いに共有できる体制を図る。
特色ある教育の展開	「学校における働き方改革プラン」	「学校における働き方改革プラン」に基づく取組の実施	・一斉退勤日には会議を入れず早く帰ることができる環境を整える。 ・SSS等を活用し、効率化を図る。 ・超過勤務時間が45時間以上にならないよう意識を向上させる。	・月に1回一斉退勤日を設定する。 ・SSS等を毎日活用する。 ・出退勤システムや18:50の音楽を生かし、超過勤務80時間以上の教員を0人にする。	B	C	C	・早く帰るといった意識が低い教員がいる。体調を崩すことにつながるため、意識の改善が必要である。	・自身の仕事の在り方の見直しをさせ、超過勤務時間を80時間以上の教員が0名となるよう意識を向上させる。
	SDGsに関する教育	・全クラス、全専科によるSDGsに関する教育活動の実施。 ・校内研究「社会科」と関連付ける。	・「見守り」「調べ」「やってみる」の観点ももち、全校で取り組む。 ・校内研究「社会科」と関連付けることでSDGsに関する教育の指導法の工夫を考える。	・学期に1回は各クラス、専科で行う。また、委員会活動など特別活動にも位置付ける。 ・各クラス、専科で年1回校内研究でSDGsに関連した授業を行う。	A	B	B	・身近なことにSDGsがあることに気付かず、無理なくすべからず。 ・身近なことで他教科と結びつけ、今後も行っていく。 ・特別なことでなく自然と意識できる児童を育成する。	・身近なことで他教科と結びつけ、今後も行っていく。 ・特別なことでなく自然と意識できる児童を育成する。
	外国語専任教諭の活用	・3年以上の外国語専任教諭による授業の実施。 ・担任の特性を生かし、交換授業を行う。	・3人の専任教諭が授業を行うことで、学習内容の充実を図る。 ・交換授業を行い、学習内容を機会均等とする。	・3、4年は週に1回、5、6年は週に2回専任教諭による外国語の授業を行う。 ・学期に1回各学年で交換授業を行う。	B	C	B	・教員の配置に変更があり、専任教諭を続けることができなかった。 ・単元ごとに交換授業を行い、教科担任制への意識をもつことができた。	・先生の得意分野を生かした教育活動を行ってほしい。 ・教科担任制と合わせて、外国語専任教員を生かせるよう、年間を通して計画を立てたり、時間割を作成したりする。